成果の説明書

(氏名)　宇田　和子	(学部)　地域政策学部

1　重要事項

1.1　研究活動

(1) 化学物質過敏症の病の経験と政策に関する研究

化学物質過敏症問題について患者と医師に聞き取り調査を行った。環境社会学と医療社会学における病の位置づけ、および患者があえて別の病名を名乗るケースについて論文を執筆している。(科研費若手 B・代表)

(2) 日本と台湾における油症被害とその補償に関する研究

食品公害問題であるカネミ油症について福岡県を中心にフィールドワークを行った。環境制御システムおよび被害補償論から見た当該問題について論文をまとめ、出版社に入稿したが、諸般の事情により出版は来年度に延期された。(科研費基盤 C・分担・立正大学)

(3) 薬害 HIV 問題と救済制度の形成に関する研究

関西と沖縄で行われた研究会に参加し、当事者への聞き取り調査を行った。研究会のテーマとは異なるが、(1) の化学物質過敏症に関する論文構想についても報告を行い、コメントを得た。(科研費基盤 B・分担・和歌山県立医科大学)

(4) 環境リスクと社会的公正に関する研究

東京で行われた研究会に参加し、日本・台湾・韓国における環境リスク意識に関する調査結果について分析を進めた。(科研費基盤 B・分担・明治大学)

1.2　教育活動

プレゼミの実施。研究室に配属される予定の 2 年次生と隔週で文献購読を行った。

映画上映会の実施。講義「地域環境論」の受講生を中心に有志を募り、講義の時間外に高レベル放射性廃棄物の処分場に関する映画「100,000 年後の安全」を鑑賞した。

2　その他の事項

2.1　学内業務

基礎教育委員、まちなか教育活動センター運営委員を務めた。学科のプログラム立ち上げに関するワーキンググループに参加した。

2.2　学会活動

環境社会学会国際交流委員を務めた。

2.3　社会活動

11 月に開催された「第 19 回ぐんま環境フェスティバル」(於：ヤマダ電機 LABI 1 高崎) にて「有害食品が引き起こす公害」と題する基調講演を行った。

3　次年度以降の計画・抱負

研究活動については、出版・発表に至った成果らしい成果がなく、最も業績の乏しい一年になってしまったため、次年度はアウトプットに集中する。とくに (1) の化学物質過敏症問題について早急に論文をまとめる。

教育活動については、「演習 I」が始まるので、ゼミ生と行う調査に力を注ぎたい。